

議員一般質問目次

令和7年第2回定例会

No.	氏 名	通 告 事 項	頁
1	隅 田 翔	1 データセンターの誘致について	1
		2 新たな養殖魚種への共同研究について	2
		3 図書室運営について	3
2	阿 部 薫	1 役場庁舎の喫煙所のあり方は	4
3	鈴 木 良 徳	1 町内の交通安全対策について	5
4	高 野 晃	1 使用済み燃料の保管期間と搬出先は	6～8
5	阿 部 律 子	1 原子力防災訓練と住民の思いは	9
		2 介護保険制度の現状と問題点は	10～11
6	鈴 木 公 義	1 海の変化と水産業について	12
		2 後期高齢者医療の取り組みについて	13

【質問者6人・質問事項10件】

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 データセンターの誘致について	(1) 近年、A I はイノベーションの加速とリスク
	への対応などが複雑に絡み合いながら急速に拡大しており、総務省はA I の普及によるデータ
	センター需要拡大やリスク分散も含めて、地方
	分散を進めています。
	現在、北海道石狩市や千葉県印西市などを中
	心に全国でデータセンターの整備や誘致、開設
	が進められており、誘致した自治体は、地域の
	活性化や雇用の創出にもつながると期待を寄せて
	います。
	データセンターを地方へ分散させる国の動き
	や今後の需要拡大について、どのように認識し
	ているか見解を伺います。
	(2) 原発立地自治体では、安価で安定的な電力供給をセールスポイントにデータセンターを誘致
	している自治体も少なくありません。福井県高
	浜町や佐賀県玄海町などでは既に建設されてお
	り、本町としても、廃校の利活用なども含め
	て、企業と連携しながらデータセンターを誘致
	する考えはあるのか見解を伺います。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 新たな養殖魚種への 共同研究について	全国各地で海水温の上昇などによる不漁が続いており、本町でも被害は深刻な状況です。対策として、新たな養殖魚種へのチャレンジに向けた漁協との連携、九州のサバ養殖施設の視察などが行われており、ほかにも、地域おこし協力隊員によるトリガイの種苗生産を目指すための研究などの模索が続いています。
	本町に適した養殖魚種を探すうえで、科学的知見に基づいたデータ収集及び研究が必要だと認識しています。研究を進めるため、豊富な設備・人材・経験を有する東北大学大学院農学研究科との連携を深めることが重要であり、これまでの連携協定で培ったマナマコ種苗採取の知見を活かしつつ、新たな養殖魚種の共同研究を進めることが有効と考えますが見解を伺います。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
3 図書室運営について	現代社会では、あらゆる分野でデジタル化が新たな変革をもたらしています。
	図書室運営においても、サービス向上や業務の効率化を目的にデジタル書籍の貸し出し、A I 技術による選書蔵書管理なども行われ、利用者の利便性向上や職員の負担軽減につながっています。
	今後は、少子高齢化や生産年齢人口の減少に伴い、図書室運営に携わる人材の確保が難しくなるとも言われています。
	まず、図書室蔵書検索システムの導入から着手するなど、D Xを推進することがこれからの時代を見据えて必要と考えますが見解を伺います。
	(質問の相手：町長、教育長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 役場庁舎の喫煙所のあり方は	東日本大震災発生から今年で14年。復興事業としては完結に向かいつつも、町民の「心の復興」に関して、いまだに一人ひとりの胸に深く重くのしかかっている現状を見過ごしてはなりません。
	このことは職員にも同様に、ストレスを抱えながら職務に当たる方もいるのではないのでしょうか。
	タバコなどの嗜好品は健康上の問題があり、強く勧めるものではありませんが、こういった意味では必要悪でもあるとは思いますが。
	一方で、喫煙所に職員が集まる姿が、住宅地や学校から見えるため、見た目や雰囲気的に良くないと町民の声も聞かれますが、そこで伺います。
	(1) 現在、職員の喫煙率は把握していますか。
	(2) 庁舎敷地内にある喫煙所で勤務時間に職員が滞在することを、率直な感想としてどのように思われますか。
	(3) 改修とまでは言いませんが、仕切り板を設置して外部からの視界を遮るなど、喫煙所の一部構造改善を検討してはどうですか。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 者 鈴 木 良 徳

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 町内の交通安全対策について	町内道路の交通安全対策について、以前から何度も同僚議員が質問しましたが、再度伺います。
	(1) 浦宿橋の女川寄りの交差点への信号機設置については、警察機関に繰り返し、強く要望しているとの回答でしたが、その後の話し合い等の進捗状況はどうなっていますか。
	(2) 浦宿橋付近の交差点を含めた町内の横断歩道については、夜暗くなる時間帯、横断歩道を渡ろうとする歩行者が見えにくい状態です。
	交通安全対策費で、もう少し横断歩道の両脇を明るくするなど、歩行者を視認しやすくすることで町内の交通安全対策を充実させることができると思いますが、この状態に町が積極的に街灯設置することはできないか伺います。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 使用済み燃料の保管 期間と搬出先は	青森県六ヶ所村の核燃料再処理工場は、昨年８月に完成時期を2026年度末に延期しており、これで27回目の延期となりました。当初の完成予定から28年も遅れており、本当に稼働できるのか見通しが立っていません。
	使用済み燃料に関して、福井県知事は「発電は引き受けてきたが、使用済み燃料の貯蔵を引き受ける義務はない」と主張してきました。私は女川町長も同じ考えだと認識しています。
	(１) 使用済み燃料の一時保管については量的制限
	を設けるべきと考えますが、女川原発に関して
	は、現在海外にあるプルトニウムとガラス固化
	体の量、さらに使用済み燃料は何体保管されて
	おり、女川原発が稼働を終えるまでに何体に増
	える見込みなのか、また、３号機を設置した時
	点での保管予定数と比較しての想定数量につい
	て伺います。
	(２) 平成30年７月31日の原子力委員会の決定では
	「利用目的のないプルトニウムは持たない」と
	いう原則を堅持し、「我が国は、この考え方に
	基づいてプルトニウムの保有量を減少させる。

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	プルトニウム保有量は、現在の保有量を超える
	ことはない」としていますが、現在、全国には
	19,000トンの使用済み燃料があるといわれています。
	六ヶ所再処理工場を稼働したとして、年間
	800トンと言われる処理能力では、これを踏まえ
	ると、19,000トン全量を再処理するには20年以上
	を要し、全国の原発で新たに排出される使用済み
	核燃料の処理を加えれば、更に時間を要します。
	さらに再処理を行った場合、返還されるMOX
	燃料を女川原発において、プルサーマルで消費し
	なければならず、また、六ヶ所再処理工場ではプ
	ルサーマル使用済み燃料は受け入れ対象外となる
	ため、その処理についても女川原発内で保管する
	ことになるのではないかと懸念しますが見解を伺
	います。
	(3) 原発を稼働している限り、最終処分場がない
	現状では使用済み燃料だけが増えていきます。
	再処理を行ったとしても、MOX使用済み燃
	料という実質の核廃棄物は残ります。これを乾
	式キャスクに入れた場合、50年以上プールで冷
	却しないと適正温度になりません。

質 問 者 高 野 晃

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	原発の運転期間が終了してもなお、長期保管 を行い続ける必要があり、廃炉にも支障が出る ものと考えますが、将来的な側面も含めた使用 済み燃料の保管期間、保管量、搬出先の計画は どのようなになっていますか。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 原子力防災訓練と住民の思いは	令和6年度原子力防災訓練が2月8日に行われま
	した。今回は能登半島地震の教訓を踏まえた訓練が
	特徴とのことでしたが、率直に言って参加者が少な
	すぎるとの思いを強くしました。より多くの住民参
	加や住民の思いを大切にしたい避難訓練であるため、
	次の点について伺います。
	(1) 今回の町民参加20数人に至った経緯と、避難
	訓練の検証および今後にかすべき課題は。
	(2) 福島第一原発の事例を受けて、「重大な事故
	が発生した場合、即時にすべての住民を指定し
	た避難所に避難させることができるのか。生活
	環境の整った避難所生活ができることを約束で
	きるのか。国、電力に対して最大限の金銭保証
	をするよう働きかけることができるのか。」と
	の住民の声が聞かれました。
	訓練や避難に関する不安を解消することも防
	災上必要と考えますが、今後の訓練実施や計画
	策定に向けての対策や見解について伺います。
	(3) 全町民参加による避難訓練のために、具体的
	に計画を立てるべきではありませんか。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 介護保険制度の現状 と問題点は	介護保険は2000年4月に制度が開始され、当初は
	「介護の社会化」がうたわれ、家族の介護負担が解
	消するという期待がありました。
	政府は、訪問介護の基本報酬額を昨年の4月から
	2～3%引き下げました。介護サービス全体では報
	酬を微増（全体で1.59%増）したものの、訪問介護
	を運営する事業者にとっては大変な状況との声が聞
	かれます。
	高齢者が安心できる介護制度であるために、次の
	点について伺います。
	（1）本町では、訪問介護事業所は本店1カ所、サ
	テライト1カ所と聞いていますが、利用者の状
	況や事業者の声などの現状を、どのように把握
	していますか。
	（2）介護保険制度の安定的な継続のためにも、近
	隣市町と連携し、国に対して訪問介護報酬の引
	き上げとともに介護保険の国負担の大幅増を訴
	えていくべきではないですか。
	（3）東京都世田谷区では、昨年、介護保険事業所
	に対して介護の人材不足や事業所の経営危機に
	対して区独自の給付金を行いましたが、本町で

質 問 者 阿 部 律 子

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
	も町独自の給付金制度が必要ではないのでしょ
	うか。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 者 鈴 木 公 義

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
1 海の変化と水産業について	地球温暖化や黒潮の大蛇行による海水温の上昇により、さまざまな影響が出ています。
	ホタテ、ホヤ、カキのへい死が多くなり、ギンザケ養殖の期間短縮による水揚量の減少も懸念されるところです。
	(1) サバ養殖実証実験の詳細について伺います。
	(2) トリガイ、三倍体カキ等の新たな取り組みを実施することに対する見解を伺います。
	(質問の相手：町長、担当課長)

質 問 者 鈴 木 公 義

質 問 事 項	質 問 の 要 旨
2 後期高齢者医療の取 組みについて	平成20年度に「超高齢化社会を展望した新たな医療 保険体系の実現」をするため、後期高齢者医療制度 が創設され、17年目を迎えました。昨今の団塊世代 の制度加入により、被保険者数の急激な増加があり ます。
	(1) 本町での被保険者数の直近5年間の推移と長 寿・健康増進事業（一体的実施事業）の取組 みについて伺います。
	(2) 後発医療品の利用促進、頻回・重複受診や重 複服薬について、本町の被保険者における現状 と対策についての見解を伺います。
	(3) 本町におけるマイナンバーカード保険証への 切り替え率と、資格確認書発行に関して事務手 続きが負担となっているようですが、その解消 のための取り組みについて伺います。
	(質問の相手：町長、担当課長)